

バオバブの会 2012年度支援報告

1. ベンチ付き長机支援プロジェクト

学校には十分な数の机・椅子がないため、子どもたちは、しばしば、家から小さな腰掛を持ってきて、膝の上に本やノートを広げて勉強しています。バオバブの会では、そのような状態を改善しようと、2011年、支援要請のあったンジャゴ小学校とサルム・ジャネ中学校へ、ベンチ付き長机を贈るプロジェクトを始め、本年1月6日のサルム・ジャネ中学校への最終送金（129,500円 現地受領額 830,074Fcf）を持って終了しました。

ベンチ付き長机を積んだトラック↓

バオバブの会の現地代理人、ジム・チャムさん↓



★★★ サルム・ジャネ中学校からの感謝の手紙 (要旨) ★★★

本校の全生徒、全教員、また、地域のすべての人々から、常に人々の成長と社会の発展に貢献しようとされているバオバブの会の皆様に、心から感謝申し上げます。

バオバブの会の皆様は、既に長年にわたり、私たちの地域の教育活動に、多大な物質的、経済的援助をしてくださっています。本当にありがとうございます。バオバブの会より本校にいただいた金額は、6年間で2,000,000Fcf（約400,000円）をこえています。私たちは、そのお金で、生徒たちに学用品を配布し、体操マットを購入し、体育その他の授業環境を充実させ、電気設備を導入することができました。特に、800,000Fcf（約160,000円）を使った電気設備のおかげで、生徒たちは、夜間、授業の復習をすることができるようになりました。さらに、映画やドキュメンタリーの映写を取り入れることにより、授業は理論ばかりでなく、より具体的で楽しいものとなりました。また、英語とスペイン語の辞書を購入し、外国語の授業を充実させることができました。さらに、本年度は75個のベンチ付き長机を贈っていただきました。お陰様で、今まで1つのベンチ付き長机を4人で使っていたものを、2人でゆったりと使うことができるようになり、生徒たちは大変に喜び、一層、勉学に励んでおります。来年度は中古のコンピューターをいくつか購入しようと考えております。中古なら私たちにも手の届く金額で購入することができるからです。これに

よって、本校の子どもたちにも、都会の子どもたちのように、情報機器の手ほどきをする
ことが可能になります。

末筆となりましたが、バオバブの会に関わるすべての皆様のご健勝と、日本が東北大震
災と福島原子力発電所の事故から一日も早く復興を果たしますよう、お祈り申し上げます。
また、いつの日か、バオバブの会の皆様を、本校と本校の学区内の村々にお迎えすること
ができますよう、心より願っております。

2012. 5. 24

サルムジャネ中学校校長 シダット・ファール

2. サーバシ・チャム小学校図書館外壁修理



2011年に開館したサーバシ・チャム小学校の図書館
の外壁修理のため、5月25日、27,315円（現地受領額
168,754 Fcfa）を送金しました。

← 図書館の前に並んだサーバシ・チャム小学校の子どもたち

3. ンジャゴ小学校のアラサン・ゲイ君に新しい松葉杖を贈る。



アラサン・ゲイ君はンジャゴ小学校の2年生
（2011~2012年度）で、良く勉強をする生徒です。セ
ネガルでも稀なことだそうですが、馬に噛まれて右足
を失いました。それ以来、彼が使っていた松葉杖は、
短かすぎる上に古くて壊れていて、3日毎に補修用の木
の棒を交換しなければなりません。バオバブの
会は、ンジャゴ小学校から届いた報告書によりこれを
知り、支援を決めました。幸運なことに、現地代理人
のジム・チャムさんがセールで10,000 Fcfaの松葉杖を
見つけ、ゲイ君に贈ることができました。その後、8月
26日付で、左の写真とお礼状が届きました。

4. 定期支援金送付

今年度も、11月7日、4つの学校に、定期支援金を贈りました。

サルム・ジャネ小学校	50,000 円 (現地受領額 306,737Fcfa)
サーバシ・チャム小学校	50,000 円 (現地受領額 306,737Fcfa)
ンジャゴ小学校	50,000 円 (現地受領額 306,737Fcfa)
サルム・ジャネ中学校	100,000 円 (現地受領額 613,474Fcfa)

5. 障がい児支援

また、AESEH (Amicale des Enseignants Souteneurs des Elèves Handicapés 障がい児童を支援する教師の会) にも、定期支援金 50,000 円 (306,737Fcfa) を贈りました。

***AESEH (Amicale des Enseignants Souteneurs des Elèves Handicapés 障がい児童を支援する教師の会) について**

アマディ・ジャロさんは、セネガルのファティック市から10キロほど東の Mbellacadio (ンベラカジャオ) 地区にある、チャバ小学校の校長先生です。セネガルの障がいを持った子どもたちの厳しい状況に心を痛め、2008年、同地区の4つの学校に勤務する7人の先生と共に、AESEH を結成しました。以来、毎年、同地区の19の小中学校で障がい児の調査をし、車椅子、松葉杖、学用品などを贈っています。バオバブの会は、2010年より、AESEH を支援しています。

***** AESEH からの報告 (抜粋) *****

私達は、今年度、ンベラカジャオ地区に於いて、70人の障がい児を調査しました。この数は年毎に増えていますが、これは、親たちが、私たちの活動の重要性を理解し始めたことによります。さらに、バオバブの会からの支援金で子どもたちに学用品を贈ることで、初めは躊躇っていた多くの親たちも、子どもたちを学校へ入学させるようになりました。

子どもたちにとって、地域のたくさんの人々の前で表彰されたりご褒美をもらうのは、大変に誇らしいものです。そこで、私たちは、CODEC (ンベラカジャオ地区校長会) の全メンバー、視学 (学校監督官)、地区長、母親会、看護師等が列席する学用品授与式を企画し、子どもたちを参列させるようにしました。これが効を奏し、彼等は喜んでやってくるようになり、学校に通う為の大きな動機となり、励ましとなりました。この授与式は、今や、子ども達にとって、またンベラカジャオ地区にとっても、たいへん重要な行事となっています。

バオバブの会の皆様に心より感謝申し上げます。

2012. 9. 3 ファティック

AESEH 会長 アマディ・チェルノ・ジャロ

授与式でスピーチするジャロさん↓



文房具の入った通学用バッグ↓



6. 新規支援

今年度、試験的にはありますが、下記の2つの小学校に支援金 50,000 円 (306,737Fcfa) を贈りました。

*クールマジヤベル小学校

元ンジャゴ小学校校長のウセイヌ・ンボウさんが転任した小学校。

ンボウさんは熱心かつ優秀な校長先生で、バオバブの会が支援に関して行う調査などにも積極的に協力していただいています。

*ンジャオ・マリック小学校

サーバシ・チャム小学校のコリー・ジョヌ先生が校長として赴任した小学校です。

コリーさんは、特に、サーバシ・チャム小学校の図書館建設の責任者として頑張ってくれた先生です。



← コリー先生 (サーバシ・チャム小学校図書館の中で)